



創立記念日

12月9日は、見明川中学校の創立記念日です。本校は、堀江中学校から分離した昭和55年4月に、市内で3番目の中学校として開校し、今年で45年目を迎えます。

当時の浦安は、まだ町でしたので、浦安町立見明川中学校として、全校生徒592名、14学級でスタートしました。

校舎が未完成だったため、堀江中学校の校舎の一部とプレハブ校舎で授業が行われていたそうです。多くの生徒は、まだ歩道橋がなかった幅の広い湾岸道路を渡っての通学で、交通量が多く苦労も多かったそうです。

その年の8月に校章が制定されました。校章のひし形は、浦安町で栄えていた漁業で使う網の目を表していて、本市の木である「イチヨウ」をその網の目に配し、三番目の中学校ということで3枚の葉が表現されているということです。

翌年の1月に、待ち望んだ新校舎が完成し、現在の地に移りました。

そして、現在の校歌は、作詞を公募で、作曲を青い山脈などで有名な作曲家の服部良一氏にお願いして作っていただきました。その校歌が、昭和56年12月9日の校歌発表会で披露されました。学校を象徴するのは、校章（校旗）と校歌で、それらがすべてそろった12月9日のこの日を「創立記念日」としました。

開校当時の生徒は、現在60歳です。保護者の中にも本校を卒業された方がおられ、45年の歴史と伝統の重みを感じます。

開校時は、生徒や保護者、地域の方々及び教職員はもとより、浦安町の行政の方々や関係者の皆様の期待や思いを受けて見明

川中学校が誕生しました。今も、地域の方々に関心を寄せ、愛される学校となっています。

私たち教職員は、さらに地域の方から愛される学校に、そして、生徒や保護者が、「見明川中学校が好き。見明川中学校でよかった。」と誇りに思える学校にしたいと、決意を新たにがんばります。

開校当時の学校の様子
(第1回卒業アルバムから)



堀江中学校の仮校舎に通う生徒

